

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

駅伝のまち「とよかわ」スポーツ・食・健康づくりのシナジーリレー推進プロジェクト

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

豊川市

### 3 地域再生計画の区域

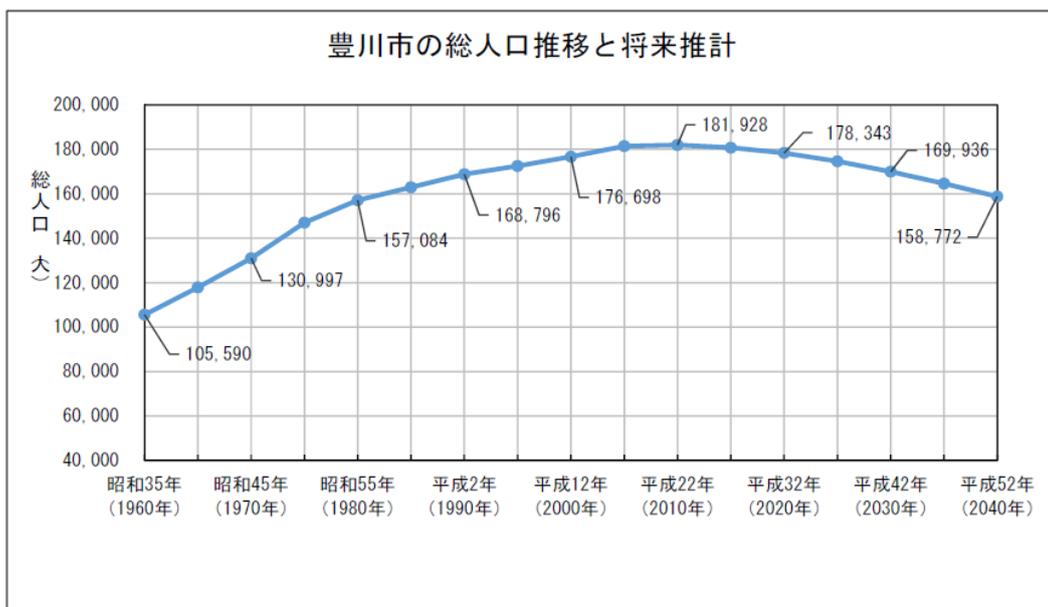
豊川市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地域の現状

(人口)

本市の人口は、直近の国勢調査では平成22年(2010年)の181,928人から平成27年(2015)に182,436人と微増(+508人)となっているものの、平成20年(2008年)の183,259人をピークとして、平成52年(2040年)には、158,772人まで減少(-24,487人)すると予測(国立社会保障・人口問題研究所推計)され、その後も緩やかに人口減少が続くと見込まれる。



出典：豊川市人口ビジョン

(地域資源)

- ・ スポーツ

本市は、駅伝で全国的にも知名度のある複数の高校を有しており、卒業

生には全日本実業団対抗駅伝競走大会などで活躍する選手を数多く輩出するなど、陸上競技を始めとするスポーツが盛んなまちである。これを活用するため、ハード事業においては平成23年度に日本陸上競技連盟第3種公認の全天候型陸上競技場の改修工事を実施し、雨天時や東三河地域の公認競技大会の開催に対応できるスポーツ施設の環境整備を行い、ソフト事業においてはウォーキング教室やリレーマラソンの開催など、健康・体力づくりに資する施策を実施している。

- ・ 観光

本市は、年間500万人を超える参拝者が訪れる日本三大稲荷のひとつといわれる豊川稲荷が所在する。また、平成25年に開催された「ご当地グルメでまちおこしの祭典！第8回B-1グランプリ in 豊川」の会場となった陸上競技場がある豊川公園周辺には、東洋一といわれた豊川海軍工廠の開設時代から存在する桜の並木が形成されており、花見・市民まつりといった来訪者を呼び込むイベントも多く実施されるなど、豊川稲荷と並ぶ本市の観光名所となっている。このほか淡水魚や動物とふれあえる赤塚山公園や旧東海道の御油宿にある国指定天然記念物の御油のマツ並木などの観光資源を有する。また、B-1グランプリの開催により、本市のご当地グルメである「豊川いなり寿司」は全国的なPRに寄与したところである。本市は東名高速道路豊川、音羽蒲郡の2つのインターチェンジを市域の東西に有し交通の利便性が高いこともあり、年間で約700万人以上が本市に訪れている。



出典：豊川市観光基本計画

- ・ 産業

本市では、温暖な気候に恵まれた施設園芸を主体とする農業が盛んであり、大葉、バラ、トマト、菊（スプレーマム）及びイチゴが本市における農業産出額（平成28年の5品目は170億円）の上位品目となっており、全国1位の生産地である愛知県で上位となる大葉やトマトなど、地産農作物は本市の地域資源のひとつとなっている。

#### 4-2 地域の課題

本市は、農業を基幹産業としながら、スポーツ及び観光の両面で交流人口を獲得することで発展してきた。しかしながら、平成25年のB-1グランプリ開催以後の本市の観光入込客数は横ばい傾向にあり、交流人口の獲得が進んでいない。今後の人口減少を踏まえると、地域経済の縮小を防止するには、スポーツ及び観光の魅力を高めるとともに本市の農産物を利用した「食」も活用することで、これまで以上に交流人口を拡大させていくことが求められる。

#### 4-3 目標

人口減少による地域経済の縮小を防止するため、本市の地域資源であるスポーツ及び観光の魅力を高めるとともに、「豊川いなり寿司」、トマトといった本市特産の農産物を利用した「食」も活用することで、交流人口を拡大させる。観光などを通じた交流人口の増加を促進するためには、来訪者に対する来訪の動機付けとなる魅力あるコンテンツを形成することが必要であり、「スポーツ」と「食」という異なる性格のコンテンツを連携させたイベントを実施することで、イベント自体の魅力を創出・拡大し、来訪者へのアピールを図っていく。

さらに、豊川稲荷などの本市の地域資源の活用も絡めた施策展開を図り、イベントの参加者数及び年間観光入込客数を増やすことで、交流人口の増加による地域の活性化と地域における経済効果の確保を目指し、人口減少下にあっても活力あるまちづくりにつなげていく。

##### 【数値目標】

| 事業  | 駅伝のまち「とよかわ」スポーツ・食・健康づくりのシナジーリレー推進プロジェクト |        |          | 年月    |
|-----|---|--------|----------|-------|
|     | イベント参加者数                                |        | 年間観光入込客数 |       |
| KPI | 市内                                      | 市外     |          |       |
| 申請時 | 3,086人                                  | 2,894人 | 736.1万人  | H30.3 |
| 初年度 | 3,100人                                  | 3,000人 | 757.4万人  | H31.3 |
| 2年目 | 3,200人                                  | 3,100人 | 778.7万人  | H32.3 |
| 3年目 | 3,300人                                  | 3,200人 | 800.0万人  | H33.3 |

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

スポーツ・観光・農業という本市の地域資源を活かしたさらなる交流人口の拡大を図るため、体力・健康づくりに資するスポーツ来訪者やご当地グルメなどに関心のある来訪者の増加を合わせて促進することとし、各種マラソン大会とご当地グルメなどが連携した魅力あるイベントを実施する。

また、昼夜を問わずに体力・健康づくりが行えるよう、陸上競技場及びその周辺に夜間照明設備を設置するとともに施設の再配置、ナイター記録会などの事業を展開する。さらに、気軽にスポーツと観光の両方を体験できる環境整備として、各観光拠点の機能充実とスポーツ施設との動線となる歩道の整備も併せて行う。

これらの事業を一体的に推進することで、交流人口のさらなる増加による地域の活性化を目指す。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：駅伝のまち「とよかわ」スポーツ・食・健康づくりのシナジー  
リレー推進プロジェクト

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

本市の観光入込客数は横ばい傾向にあり、今後人口減少が予測されることを踏まえると、現状のままでは地域経済は縮小していくと考えられる。本事業の実施によって、いつでも気軽にスポーツができる環境を整えることにより、スポーツによる交流人口増施策を推進し、横ばい傾向である年間観光入込客数の増加を図る。それとともに、規模の大きなイベント時において、参加者に対する地元農産物の食材などを活用した「走る・食べる」の同時体験ができるおもてなしPRを行うといった、「スポーツ」と「食」のコラボレーションによるシナジー効果により、本市へ多くの来訪者を呼び込む。これらの事業を通じて、本市における交流人口の増加と地域の活性化を目指す。

(事業の内容)

・「ラン&イート」で楽しむイベントの開催

本市のイベントの中でも参加者の多いリレーマラソンやシティマラソンなどへ、著名なゲストランナーを招致し交流ランなどを行うように、イベントへの参加促進につながるメニューを充実させる。さらに、マラソンコース沿道などに地元農産物を素材とした「走りながら食べる」ことができるおもてなしブースを設置することにより、参加者に対して本市の農産物のPRを行う。このように「食」と連携させた新たなイベントを開催することで、イベント参加者数や観光入込客数といった交流人口の増加を図る。

・陸上競技場夜間照明整備事業

現在の陸上競技場は夜間照明がないため、これまで夜間利用の誘客機会を逸していた同施設において、日没後におよぶ大会や夜間の一般利用にも対応できる場内外への照明設備を新たに設置し、シーズンを通じて活用ができる運動施設の環境整備を行うことで、スポーツを実施する層を対象とした交流人口の増加を目指す。

→各年度の事業の内容

| 年度  | 事業内容   |
|-----|--|
| 初年度 | ・「ラン&イート」で楽しむイベントの開催（ゲストランナー招致と交流ラン、会場周辺での地元農産物の提供）            |
| 2年目 | ・「ラン&イート」で楽しむイベントの開催（コース沿道での地元農産物による食のおもてなし）<br>・陸上競技場夜間照明設置工事 |

(4) 地方版総合戦略における位置付け

本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略では、基本目標②「ひとの流れづくり」において「地域資源の活用、新たなブランドの創出推進及び観光の振興」を定め、具体的取組として自然を生かした公園の魅力向上、都市圏プロモーション及び豊川産農産物のブランド化・販路開拓への支援に取組むこととしており、数値目標として年間観光入込客数（H26：711万5千人→H31：783万6千人）としている。

本事業は、地域資源を国内外に発信し、豊川市に「ひと」を呼び込む流れをつくる当該まち・ひと・しごと創生総合戦略の実現に直接寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

| 事業  | 駅伝のまち「とよかわ」スポーツ・食・健康づくりのシナジーリレー推進プロジェクト |        |          | 年月    |
|-----|---|--------|----------|-------|
|     | イベント参加者数                                |        | 年間観光入込客数 |       |
| KPI | 市内                                      | 市外     |          |       |
| 申請時 | 3,086人                                  | 2,894人 | 736.1万人  | H30.3 |
| 初年度 | 3,100人                                  | 3,000人 | 757.4万人  | H31.3 |
| 2年目 | 3,200人                                  | 3,100人 | 778.7万人  | H32.3 |

(6) 事業費 (単位：千円)

|    | 年度    | H30   | H31    | 計      |
|----|-------|-------|--------|--------|
|    |       | 事業費計  | 1,000  | 54,200 |
| 区分 | 負担金   | 1,000 | 1,000  | 2,000  |
|    | 需用費   | 0     | 400    | 400    |
|    | 工事請負費 | 0     | 52,800 | 52,800 |

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

| 年度                 | H30 | H31 | 計   |
|--------------------|-----|-----|-----|
| あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 | 100 | 100 | 200 |
| 計                  | 100 | 100 | 200 |

(8) 事業の評価の方法（PDCA サイクル）

（評価の手法）

外部有識者により構成する「豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」や議会の関与により評価する。

（評価の時期・内容）

毎年度、9月頃に開催する「豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」による効果検証を行い、効果の測定を実施する。

（公表の方法）

豊川市ホームページにて公表を行う。

(9) 事業期間

平成30年8月～平成32年3月

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) ナイター陸上競技記録会

事業概要：夏季に開催する陸上競技の強化競技会を夜間照明設置後に日中から夜間に変更し、出場選手の体調管理に配慮した大会開催により、交流人口の拡大を図る。

実施主体：東三河陸上競技協会

事業期間：平成 32 年度～

##### (2) 都市計画道路桜町千両線整備事業

事業概要：豊川公園から近接する豊川海軍工廠平和公園、赤塚山公園などの観光拠点へのウォーキングルートとなる都市計画道路桜町千両線の歩道を整備し、桜並木を生かした周遊の動線となる歩行者空間を創出する。

実施主体：豊川市

事業期間：平成 28 年度～平成 34 年度

##### (3) 豊川公園施設再配置検討事業

事業概要：市プール廃止に伴う跡地利用を含めた豊川公園全体のゾーニングを考慮した施設再配置の検討を行うことにより、スポーツやイベント機能の充実を図り、交流人口の創出に資する利便性や魅力向上を図る。

実施主体：豊川市

事業期間：平成 30 年度～

##### (4) 赤塚山公園充実事業

事業概要：平成 5 年に開園した本市で最も集客力のある赤塚山公園について、ニーズに合った施設のリニューアルとともに周遊の拠点となる機能充実を行い、交流人口の増加を図る。

実施主体：豊川市

事業期間：平成 30 年度～

## **6 計画期間**

地域再生計画認定の日から平成 35 年 3 月 31 日まで

## **7 目標の達成状況に係る評価に関する事項**

### **7-1 目標の達成状況に係る評価の手法**

外部有識者により構成する「豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」や議会の関与を得ながら、検証結果報告をまとめる。

### **7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容**

毎年度、9 月頃に開催する「豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」による効果検証を行い、効果の測定を実施する。

### **7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法**

豊川市ホームページにて公表を行う。